

経営比較分析表（令和6年度決算）

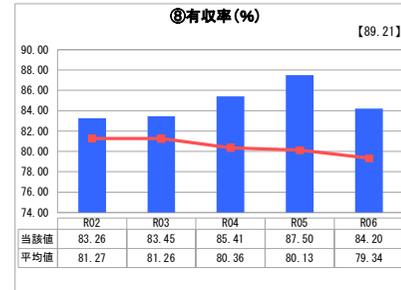
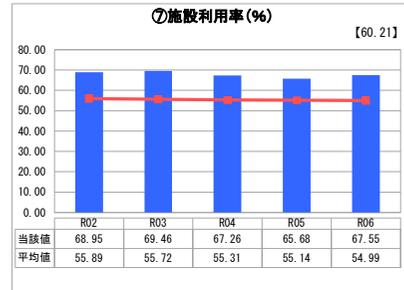
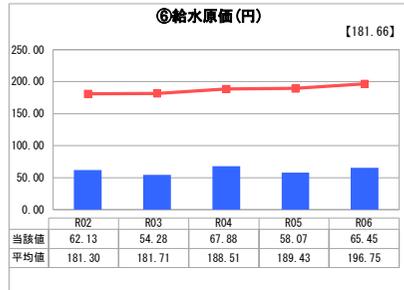
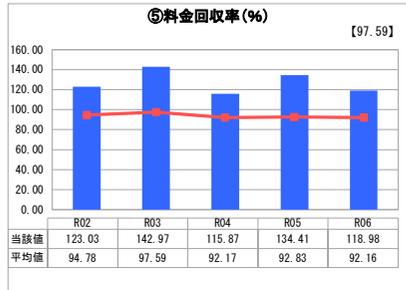
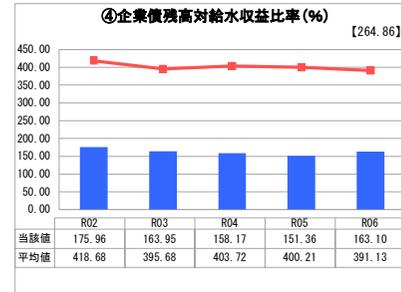
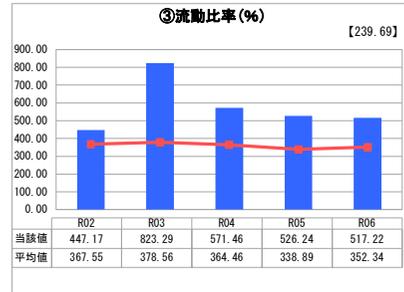
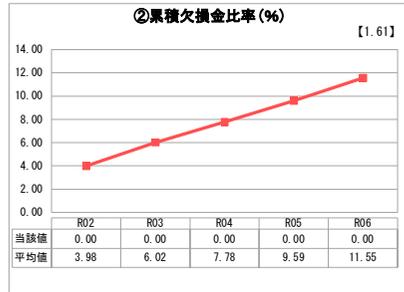
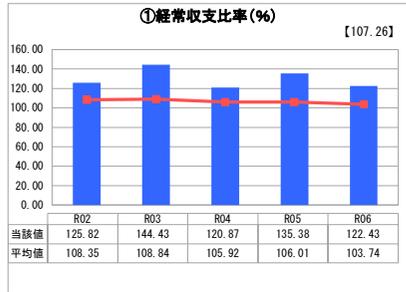
和歌山県 上富田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20㎡当たり家庭料金 (円)	
-	80.05	99.80	2,200	

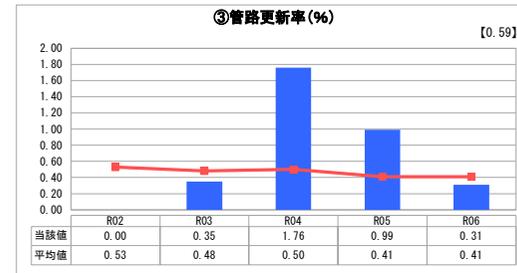
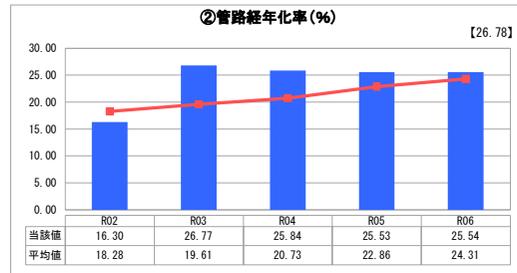
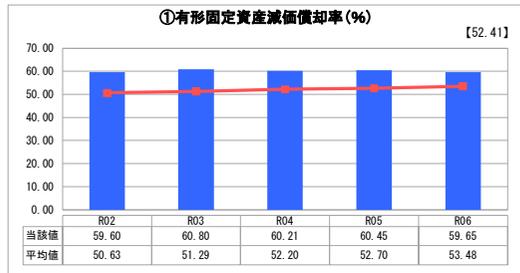
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
15,683	57.37	273.37
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
15,599	57.37	271.90

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率⑤料金回収率は、類似団体平均を上回り、100%を超える高い水準で推移しているが、当年度は給水収益の減少、路面復旧費等の費用の増加により両者ともに比率は悪化している。
 ③流動比率は、昨年度より僅かに減少したものの、500%を超える高い水準を維持している。短期的な支払能力は十分にあり、給水に係る費用を給水収益で賄えていることから、経営状態は安定しているといえる。
 ④企業債残高対給水収益比率は、企業債の発行を抑制しているため、類似団体平均より低い水準で推移している。ただし、今後取り組むべき課題の一つとして、更新時期が到来している施設や管路の更新が挙げられており、計画的に老朽化対策に取り組む必要がある。
 ⑥給水原価は、路面復旧費等の費用が増加したことにより上昇したものの、類似団体平均を大きく下回る水準で推移しており、現状では効率的な給水ができてきているといえる。
 ⑦施設利用率⑧有収率は、類似団体平均を上回る水準で推移しており、現状は施設の規模や利用状況は適切といえるが、今後、施設の更新を行う際には、将来的な人口の減少を見据えた適切な施設規模を検討する必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率②管路経年率は、上昇傾向にあり類似団体平均を上回っている。配水管の更新工事をおこなったものの、③管路更新率は、1%を下回る状況であり、更新ベースの見直しは今後の大きな課題である。法定耐用年数を超えて使用している施設や管路が多いことから、計画的な老朽化対策に取り組み、施設の更新及び長寿命化を図る必要がある。

全体総括

経常収支比率、料金回収率ともに100%を超えており、現状は健全な経営状況にあるといえる。しかし、有形固定資産減価償却率及び管路経年率は、類似団体平均よりも高い状態となっており、施設や管路の老朽化が進んでいる。今後、昭和40年代に敷設された管路の更新時期が集中して到来するため、計画的な更新を行う必要がある。
 また、今後の人口減少による給水収益の低下及び老朽施設の更新費用の増加により、将来的に経営状況が急速に悪化するとも考えられる。
 これらのことから、今後は、令和2年度に策定した水道ビジョンをふまえ、水需要の見直しなども考慮したうえで施設や管路の計画的な更新や修繕を行うとともに、それらの財源を確保しながら、中長期的視点での事業運営を行っていくことが必要となる。